

第25回国際労働問題シンポジウム

若者と雇用 危機の克服に向けて

特集にあたって

2012年10月23日、第25回国際労働問題シンポジウムが、国連大学のエリザベスローズ・ホールで開催された。1987年に始まったこのシンポジウムは、2003年以降ILO駐日事務所と法政大学大原社会問題研究所の共催、2011年以降日本ILO協会の後援で開催されている。

シンポジウムは原則として、その年のILO総会で取り上げられた議題の一つを選んでテーマとし、討議に参加した政府および労使の代表から報告を受け、これに関する学識経験者による報告やパネリスト間の意見交換、フロアからの質疑応答を行うかたちで実施されてきた。第25回国際労働問題シンポジウムは、2012年6月の第101回ILO総会で取り上げられた議題のうち、第5議題「若年雇用危機」をテーマとして開催された。若年雇用問題は、2005年の総会でも取り上げられた。しかし、近年、前例のない若年雇用危機（高水準の若年失業、学校から仕事への移行時の困難増大、若年層に開かれた雇用の質の低下等）への懸念が高まったため、ILO理事会はこの問題を12年総会で再び一般討議として取り上げることとなった。

シンポジウムでは、政労使、学識経験者の報告・講演だけでなく、ILOアジア太平洋総局から若年雇用の専門家が来日し、講演していただいた。このテーマは多くの人々の関心を集め、研究者や学生（海外からの留学生を含む）、労働組合関係者、企業関係者、NPO関係者、マスコミ関係者など約130人が参加した。共催および後援のILO駐日事務所、日本ILO協会のご尽力の賜物であろう。両団体に改めて謝意を表したい。最後になるが、パネリストをはじめご参加いただいた方々などすべての関係者に、心からお礼を申し上げたい。本シンポジウムでの講演・討議・意見交換が、若者の雇用問題をめぐる今後の論議の展開に資するものとなるよう期待してやまない。（鈴木 玲）

第25回国際労働問題シンポジウム 若者と雇用 危機の克服に向けて

共催 法政大学大原社会問題研究所
ILO駐日事務所
後援 日本ILO協議会

日時 2012年10月23日（火）午後1時～5時30分
会場 国連大学ビル5階 エリザベスローズ・ホール

司会
2012年のILO総会について
若者の雇用危機

法政大学大原社会問題研究所教授 鈴木 玲
ILO駐日代表 上岡 恵子
ILOアジア太平洋総局 若年雇用専門家
マシュー・コニャック

政府の立場から
労働者の立場から
使用者の立場から
若者の雇用問題

厚生労働省大臣官房国際課課長補佐 朝比奈 祥子
日本労働組合総連合会副事務局長 安永 貴夫
日本経済団体連合会 国際協力本部副本部長 松井 博志
東京大学大学院教育学研究科教授 本田 由紀

（注）肩書は2012年10月現在